

令和5年4月26日

校長決定

東京都立小岩高等学校 令和5年度 学校経営計画

1 目指す学校

スクール・ミッション

「知力」、「体力」、「人間力」を高めることを教育目標とし、学習活動と学校行事・部活動との両立を図り、生徒の進路実現に向けた全ての教育活動を通して、「30歳の時にやりたい自分」を考えさせて、自ら学ぶ力、課題解決能力、コミュニケーション能力、基礎体力、自律する力、協働する力、行動する力をそなえるように指導して、揺るがぬ力を基盤に未来社会に輝く生徒を育成します。

教育目標 「知力」、「体力」、「人間力」を高める

- (1) 自ら学ぶ姿勢をもち、互いに切磋琢磨し、高い目標を実現する。
- (2) 生涯にわたって健康を保持・増進し、心身を鍛え、困難を乗り越える力を身につける。
- (3) 人権尊重の理念を正しく理解し、常に感謝の念をもち、豊かな人間性を育む。

スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ① 自ら学ぶ力（基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力の育成、自学自習の確立）
- ② 課題解決能力（課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理・解決する）
- ③ コミュニケーション能力（他者の考えや異なる文化を理解し、自分の考えを表現する）
- ④ 基礎体力（心身の健康を養い、安全・安心を確保し、個に応じた体力を保持・増進する）
- ⑤ 自律する力（自らの意志で自分の考えや行動を律することができ、将来社会に貢献できる）
- ⑥ 協働する力（目標を共有し、互いに尊重しあい、力を合わせて活動する）
- ⑦ 行動する力（自分の意志により行動し、決めたことを最後までやり抜く）

(2) カリキュラム・ポリシー

学習活動と学校行事・部活動との両立を図り、生徒の進路実現に向けて、全ての教育活動を通して、生徒を育てることを念頭におき、様々な取組を実践する。東京都教育委員会からの英語教育推進校及び Sport-Science Promotion Club の指定を受け、継続的に国際理解教育と部活動の強化及び発展を図ります。本校が、生徒、保護者、地域から信頼され、その期待に応えられるべく質の高い教育を提供するため、あらゆる教育活動に創意工夫を重ねていきます。

(3) アドミッション・ポリシー

本校は学習・部活動・学校行事など高校生活全般に力を入れ、教養や人間性を高めて社会に貢献できる人間の育成を目指しています。そこで、本校の特色を理解し、本校への入学を強く希望する以下のような生徒を期待します。

- ① 学習意欲が高く、学力の向上に努め、得意科目を更に伸ばし、不得意科目を克服しようとする生徒
- ② 部活動に入部し、3年間継続して活動して、技術・能力を高めたり、人間関係を深めたりすることなどに積極的な生徒
- ③ 生徒会役員やクラスのリーダーとなり、体育祭・文化祭・合唱祭など学校行事を更に充実させるために活動する生徒
- ④ 大学進学や就職など進路の目標を定め、その達成に向けて日々努力を継続し、特に各講習に積極的に参加する生徒
- ⑤ 英語検定やGTEC、漢字検定などに積極的に受検し、更に高い段階を目指す生徒
- ⑥ 他者に気配りができ思いやりがあり、HR活動や部活動など集団での取組を通して、自己の人間性を高めようとする生徒

2 中期目標と方策

(1) 学校経営

学年、分掌、教科、委員会、経営企画室等の各組織がそれぞれ責任を果たし、連絡調整を図って連携し、教職員の力を結集して、企画調整会議で学校運営の「納得解」が得られるように議論を重ね円滑な学校運営を推進する。そのために、会議の在り方として、報告・連絡に終わることがないように、具体策を検討する内容とし、PDCAサイクルの徹底を図った学校運営をする。

(2) 学習指導

学習指導を充実させ、生徒一人ひとりの学力を確実に向上させ、進路指導に連動させる。そのために、各教科会を中心とした組織的な教科指導體制を構築して、生徒に「学びに向かう力」を身に付けさせるために「生徒主体の学びの時間の増大」と「深い学びを体感できる場面の充実」を図る。また生徒が主体的に学習に取り組むよう、校内自習室を継続するとともに、3回の繰り返し学習を奨励し、家庭学習習慣も身に付けさせる。一人1台端末を活用した朝テストの実施やICT機器や一人1台端末、オンライン授業の実施等のデジタル技術の活用により、生徒主体の学びと深い学びを引き出し、生徒にとっての「個別最適な学び」を見つけ出させるとともに生徒の「確かな学力」の向上を目指す。

(3) 進路指導

継続的なキャリア教育の視点から、「30歳の時になりたい自分」を考えさせ、「自問自答」を繰り返し、自らすべきことを「To Doリスト」にして進路実現に向けて実践することを学校の教育活動全体での指導を実施する。「人間と社会」や「総合的な探究の時間」の学習において「キャリア・パスポートを活用することで、自らの「キャリアデザイン」につながる進路指導となるようにする。大学進学に向けては、個に応じた進路指導を充実させ、国公立・早慶上理・GMARCH・日東駒専レベル以上の合格者数60名以上を目指すとともに、志望する専門学校進学率100%、公務員内定率90%、就職内定率100%を目指す。

(4) 生活指導

規範意識を高め、互いの人格や生命を尊重する態度を養うとともに、素直で謙虚な心を持ち、人間性豊かな人物を育成する。そのために、小岩高校ドレスコードに基づき、自らの行動、ふるまいについて継続的に指導する。また、自律的生活習慣を確立し、文武両道に集中できる生徒を育成する。

(5) 特別活動・部活動

三大行事（体育祭、文化祭、合唱祭）の生徒による自律的運営化や部活動のさらなる活性化を図り、生徒の満足度を高めて積極的に活動する態度を養い、社会に貢献する人を育成する。男女バドミントン部と硬式野球部が東京都教育委員会から令和4年度から3年間の期間「Sport-Science Promotion Club」の指定を受けた。男女バドミントン部のインターハイ出場、関東大会出場、その他の運動部で東京都ベスト32以上の部活動8部以上を目指す。

(6) 健康づくり

体育健康教育推進校として、デジタル技術を活用した個別最適学びを考えた体育授業や体育的行事、部活動を通じて体力・運動能力の向上を図る。また、生涯を通じて心身ともに健康で豊かな人生を送るために、基礎的・基本的知識や技能を習得し、スポーツを継続的に実践する態度を育む。そのために東京都体力テストすべての項目で平均値を上回る。また体罰根絶、いじめ防止、自殺未然防止と安心・安全な学校を構築する。そのための取組として、教職員、スクールカウンセラーが連携し、組織的な相談体制を充実させ、生徒の心身の健康を保持増進させる。

(7) 募集・広報活動

本校で学び活動する魅力を随時情報発信・公開し、地域に根差し、信頼される学校として、組織的な募集・広報活動を展開する。ホームページの更新回数、アクセス数の増加、通信などの発行を通じて、情報発信に努める。また学校説明会、見学会、個別相談会において、常に工夫し、本校のPR活動を推進する。

3 今年度の取り組み目標と方策

(1) 学校経営

「スクール・ミッション」の「知力」、「体力」、「人間力」を高めることを教育目標とし、学習活動と学校行事・部活動との両立を図り、生徒の進路実現に向けた全ての教育活動を通して、「30歳の時になりたい自分」を考えさせて、自ら学ぶ力、課題解決能力、コミュニケーション能力、基礎体力、自律する力、協働する力、行動する力をそなえるように指導して、揺るがぬ力を基盤に未来社会に輝く生徒を育成するために、以下のことを指導の重点として教員の共通理解を図る。

- ① 各教員の個性や特性を發揮させ、授業、特別活動、部活動で様々な工夫をさせ、まず教員自らが「小岩高校に来て良かった」と体感できる教育場面を創出することで、生徒が「小岩高校に来て良かった」を体感できる教育を継続する。
- ② 「小岩高校に来て良かった」という体感から、自己肯定感に繋げるようにして、小岩高校の一員として自覚、よりよく生きることを考える「小岩プライド」を育てる教育を継続する。
- ③ 「安心・安全で生徒の居場所のある学校づくりを推進する。
新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策を生徒自らが意識して実践できるよう指導する。生徒が自分で安心できる居場所（先生や友達）を見つけさせ、様々な悩みなどを相談できる校内体制を整えるとともにいじめゼロの学校づくりを推進する。
- ④ 「30歳の時になりたい自分」を考えさせることをキャリア教育の柱としてキャリア・パスポートを活用させながら、「各教科」「人間と社会」「総合的な探究の時間」「ホームルーム活動」「特別活動」等での調べ学習や自問自答等を記録させることで、自らの進路実現に結びつけることができるように指導する。
- ⑤ 「各教科」「部活動」「特別活動」の場面において、7つのグラデュエーション・ポリシー（自ら学ぶ力、課題解決能力、コミュニケーション能力、基礎体力、自律する力、協働する力、行動する力）について、適切に指導するようにして、揺るがぬ力を基盤に未来社会に輝く生徒を育成する。

(2) 組織体制

- ① 企画調整会議の内容の確実な報告と各分掌からの意見を反映した学校運営をする。
各分掌主任にC（前年度の反省の確認）➡A（課題改善策の検討）➡P（改善策の立案）➡D（記録を残す実践）のPDCAサイクルを意識した分掌運営を継続させる。
- ② 服務事故ゼロを目指す。年度当初、強化月間（2回）のみならず、様々な規模・方法で、研修を行う。また教職員相互の意識を高め、声かけなど注意喚起を常時行う点検体制を整備・強化する。
- ③ 「体育健康教育推進校」「Sport-Science Promotion Club」、「英語教育推進校」の学校の特色を生かし、文武両道を更に推進し、一層の質の向上を図る。
- ④ 経営企画室の経営参画をより一層推進し、教員との連携・協力体制を構築し、経営基盤を強化なものにする。特に予算の適切な執行、学校徴収金の管理や個人情報の取扱いを適切に行う。
- ⑤ 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、教職員のライフワーク・バランスを推進する。

(3) 学習指導

- ① 「授業の最後にできてほしい具体の姿」について、生徒にわかりやすく説明して、それが、「評価の観点」となることを視覚的に示すようにする。
- ② 授業において、自らメモを取ることを推奨するなど「生徒主体の学び」と「深い学び」を引き出す授業実践をして、生徒の頭の中が働いている状態を作り、自分の考えを言ったり、書いたりさせるようにする。
- ③ 「前時の復習テスト」「小テスト」「繰り返し学習場面の設定」「反復学習プリント」等の基礎的、基本的な学習の定着を促す指導を実践して、生徒に確かな学力を身に付けさせる。
- ④ デジタル技術を活用して、生徒に興味・関心をもたせ、自ら調べたり、仮説を立てたり、試行錯誤をさせる場面を作ることによって生徒に学びに向かう力を育成させる。

- ⑤ 授業の最後に5分以上の時間を確保して、授業のゴールを確認する問題演習や授業でわかったことを自分の言葉でまとめさせる指導する。
- ⑥ 「授業でできなかったこと」や「生徒自らの課題」について、自宅学習での3回復習を推奨して、確かな学力を身に付けさせる。
- ⑦ 長期休業日における講習・補習等を積極的に行い、基礎・基本の定着を図る。
- ⑧ 放課後の講習・補習の実施と宿題の提出、そして自習室の開放を推進し、学習習慣を高め、自学自習を支援する。（生徒一人1台端末の積極的な活用）
- ⑨ 主体的・対話的で深い学びを実現するために、思考力・判断力・表現力の育成を重視した授業改善を積極的に行う。年に2回以上授業観察の後に管理職による授業改善シートを活用した授業改善の振り返りを実施する。
- ⑩ 読書を積極的に奨励し、生徒の知的好奇心を高め、教養の涵養、読解力の向上を図る。
- ⑪ 習熟度別授業や少人数授業を通じて、個に応じた学習指導の徹底を図り、学習の質を向上させる。
- ⑫ ICT機器や一人1台端末、オンライン授業の実施等のデジタル技術の活用により、生徒主体の学びと深い学びを引き出し、生徒の確かな学力の向上を目指す。
- ⑬ 生徒に「To Do リスト」の活用やPDCAサイクルに基づいた進路実現に向けた学習を实践させ、自らの個別最適な学びで進路実現を果たす学習習慣を身に付けさせる。

(4) 進路指導

- ① 「30歳の時になりたい自分」を考えることを進路指導の重点とする。
- ② 「30歳の時になりたい自分」についての自問自答を継続的に記録に残すことで、自ら興味のあることを調べさせ、そのために必要なことについて「To Do リスト」を作成させて実践させる指導をする。
- ③ 自らの進路実現に向け、キャリア・パスポートの記入を通じてPDCAサイクルに基づく自己実現ができるように指導していく。
- ④ 特に進学に向けての取りかかりが遅いので、模擬テストの結果分析に基づく個別相談や個別学習指導について、1学年、2学年の各学期の個別面談で指導するようにする。さらに個人面談の進路希望を生徒環境調査票の裏面に記入して個に応じた進路指導をする。
- ⑤ 3学年の推薦入試や総合型選抜の面接練習に若手教員も立ち合わせ、面接指導を組織的に実施するとともに、一般入試に向けた各教科の個に応じた指導も生徒に計画表を出させるなどして実現性の高いものにしていく。
- ⑥ 大学入試、公務員・就職試験合格に向けた講習を組織的・積極的に行うとともに外部模試を有効的に活用し、第一志望を諦めない生徒の姿勢を育成する。
- ⑦ 勉強合宿（夏季・冬季）を組織的に運営し、学習習慣の定着を図るとともに、実力養成につなげる。

(5) 生活指導

- ① 生徒の自律心や自己管理能力を育成する指導を全校体制で実践する。生徒の自律心を醸成することを念頭に置いたうえで、生徒部を中心とし、各学年との連携を深め、全教員で全生徒を指導することをモットーとして教員による声かけを徹底して行う。上記の実践のため、適宜、拡大生徒部会を開催して生徒に指導すべきことを職員会議で確認して、全教員で指導する。
- ② 生徒自らの自律を促すために、生徒自らがTPOを考え実践する「ドレスコード」指導をする。儀式的行事において、生徒がTPOを考え、自らの服装を整えその場にふさわしい服装で自らを律することができるように指導をする。
- ③ 時間厳守の徹底、遅刻防止・授業規律（チャイムスタート）の徹底、けじめのある生活習慣の徹底を図る。「あいさつをする」「時間を守る」「身だしなみを整える」「掃除をする」といった「あ、じ、み、そ運動」を推奨する。
- ④ スマートフォンや携帯電話の適正利用、特にSNSに係るトラブル未然防止・（発生時の）早期対応などについて組織的・全校的・継続的な取組を推進する。
- ⑤ 教員による交差点など危険箇所での立ち番指導、駐輪指導を実施するとともに、生徒会生徒に

よる自転車登校マナー向上キャンペーンを年3回以上実施して、生徒に交通ルール、マナーを遵守させて、自転車事故根絶を図る。

- ⑥ いじめ対策委員会の定期開催、生徒のいじめアンケート調査、全教職員による日常の観察や面接等において、いじめの未然防止を徹底し、早期発見・早期対応及び情報共有の組織体制を構築する。
- ⑦ 自殺対策基本法等及び自殺総合対策大綱に基づく生徒の自殺対策に資する教育（特に「SOSの出し方」に関する教育を推進させて命の尊さを学ばせるとともに、生徒の居場所を作り、悩みを抱え込ませないように、スクールカウンセラー等を活用し、生徒1人1人の心の健康に対応できる相談体制を確立する。

(6) 特別活動・部活動

- ① 学習と両立し、学校行事、委員会活動等に積極的に取り組み、生徒会及び各委員がそれぞれリーダーシップを発揮し、活力ある学校づくりを推進・指導する。
- ② 体育祭「一体感」、文化祭「おもてなし」、合唱祭「ハーモニー」という伝統のテーマに基づき、自主自律の精神で、生徒の主体的な活動を指導・支援する。
- ③ 1年生に対する「部活動ひっぱり会」を充実させ、3年間部活動を継続させる指導を行う。年度の途中入部の促進、勧誘等により、部活動加入者の増加を図る。
- ④ 小岩高校部活動方針に基づき、年度当初に1年間の部活動指導計画を作成し、感染症防止対策を徹底させながら、目標達成に向けて意図的・計画的な指導を行う。
- ⑤ 中学生の部活動体験や合同練習などにより、小岩高校の部活動を発信する。
- ⑥ 「Sport-Science Promotion Club」の指定の維持、発展を継続させるとともに、生徒同士が切磋琢磨し技術や体力の向上に努める環境をつくる。合同合宿や強化合宿、他県遠征を通じて、より高い目標を目指すよう指導する。
- ⑦ 教科「人間と社会」を活用し、社会人として生きる意識・力を身につけさせる一環として、地域における体験学習などを通して、異年齢や多様な人々と交流を深める。
- ⑧ オリンピック・パラリンピック教育、東京都の次世代リーダー育成道場や希望者に対するTGG訪問、様々な教育活動の中での在日留学生との交流などを実施し、国際交流を一層積極的に推進し、将来の国際社会への関心を高める。
- ⑨ 日本の伝統・文化の良さを理解し、様々な国や地域の方に発信できる生徒の育成を図る。

(7) 心身の健康づくりと安全教育

- ① 薬物乱用防止教室、防災教育など生徒の生命、安全を守るための指導を徹底するとともに、学校全体の危機管理体制を強化する。
- ② 体力テストの実施、体育健康教育推進校として、デジタル技術を活用した個別最適な学びを考えた体育授業、学校行事、部活動を通じて、1学年より生涯スポーツの精神を理解させ3年間を計画的・系統的に指導し、運動技術、体力の向上、精神面の強化を図る。
- ③ 学校保健委員会、安全衛生委員会を中心に、教職員、保護者、地域、関係機関との連携を強化し、生徒及び教職員の健康づくりを推進する。
- ④ 感染症、アレルギー反応への対応等に対する意識を高め、発生を未然に防ぐ予防指導、感染拡大を防ぐ組織体制を継続的に確立する。
- ⑤ 清掃強化日をもうけ、施設の清掃活動の徹底、ゴミの分別・減量に努め、校内の美化・環境整備を推進する。

(8) 募集・広報活動

- ① 都立学校開放事業に基づき、校内施設の開放や公開講座を実施し、小中学生、地域との連携を深め、地域貢献を図る。
- ② ホームページの更新、アクセス回数を増やし、在校生、中学生及びその保護者、また地域の方々に適時、適切な発信を行う。
- ③ 中学校との連携を図り、授業公開、出前授業、学校見学・説明会、部活動見学等を充実させる。
- ④ 生徒による母校訪問等で本校の教育活動の特色を発信して、志願者増加につなげる。

4 重点目標と方策

(1) 生徒の個に応じた目標実現を目指す。

- ・ 生徒の第一志望を諦めさせない学習指導、面接指導を徹底する。
- ・ 進路決定率 100%
- ・ 国公立大学、難関私立大学の合格者数 5名 (浪人含む)
- ・ GMARCHレベルの大学 20名
- ・ 日東駒専レベルの大学 70名
- ・ 専門学校・公務員・就職内定率 100%

(2) 部活動・学校行事の活性化を継続する。

- ・ 部活動加入率 85%
- ・ 学校評価アンケート学校行事項目の生徒満足度 90%以上
- ・ 全国高校総体出場 1部
- ・ 関東大会出場 2部
- ・ 東京都ベスト32以上 8部

(3) 生徒・保護者・中学生・都民から信頼され、安心・安全な学校を目指す。

- ・ いじめゼロ
- ・ 自転車等交通事故ゼロ
- ・ 遅刻者数の減少 1日平均25名 (令和4年度37名、3年度11名、2年度28名)
- ・ セーフティ教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室の実施
- ・ 教育相談委員会毎月開催
- ・ 毎学期の担任による個人面談・三者面談の実施

(4) デジタル技術を活用した教育を推進する。

- ・ オンライン、一人1台端末を活用した研究授業の実施 年間5回以上
- ・ 定期考査採点分析システムを活用した教科会の実施 年間3回以上

(5) 特別支援教育の理解推進と充実を図る。

- ・ 鹿本学園との生徒会役員を中心とした交流会の実施
- ・ 「～特別支援教育の理解推進を目指して～広がれ絆！オープンフェスタ」への参加
- ・ 個別の支援が必要な生徒に対する教育相談委員会による個別支援計画の作成

(6) 国際理解教育の推進を目指す。

- ・ オンラインおよびメールを活用した海外交流を年間3回実施
- ・ JET青年による英会話活動を毎月(10回以上)実施
- ・ 希望生徒に対するTGG校外学習を年間2回実施
- ・ オリンピック・パラリンピック教育の一環として、講演会、体験活動を実施

(7) 広報活動・募集対策活動の更なる充実を目指す。

- ・ 授業公開・学校見学会・学校説明会等の来場者数 2,500名以上
- ・ 部活動見学 500名以上
- ・ 地域ボランティア・体験活動参加 3回

(8) 教職員のライフワーク・バランスの積極的な取り組みを目指す。

- ・ 報告・連絡を効率よく行い、会議・委員会の時間を短縮する。(50分以内)
- ・ 原則として、部活動の休養日を1週間に1日以上、必ず設ける。(生徒の怪我や事故防止の観点から練習時間も工夫する)
- ・ 毎学期、定期考査期間を定時退庁ウィークとし、長時間労働の改善を図る。7、8、12、1月を休暇取得促進月間とし、休暇取得の促進を図る。
- ・ 若手教員を対象とした校内研修会を、年間を通して計画的に実践する。(年間10回)